

フィールドスタディ（地域再生）の参加報告レポート

早稲田大学政治学研究科 公共経営専攻 諭露

1. プログラムの実施スケジュール

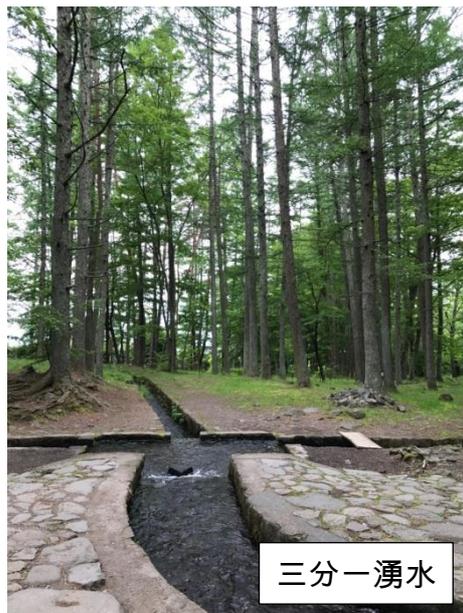
第1回目	1日目	5月28日	午前	韮崎駅集合
			午後	道の駅 はくしゅう（農産物直売所ほか）見学
				サントリー「南アルプス天然水ガイドツアー」
				道の駅 こぶちさわ 三分一湧水見学
	夜	羽村自然休暇村 意見交換会		
	2日目	5月29日	午前	羽村自然休暇村施設視察およびヒアリング
				北杜市内観光資源視察 萌木の村
			午後	高根地区地域委員会ヒアリング
				北杜市内観光資源視察 清泉寮
3日目	5月30日	午前	羽村に移動（北杜市-羽村市間の移動体験）	
			羽村市視察（スポーツセンター・農産物直売所・根がらみ前水田・羽村堰・羽村市観光案内所・ゆとろぎ	
		午後	羽村市動物公園	
			市役所にてヒアリング	
第2回目	1日目	6月21日	午前	韮崎駅集合
			午後	農政課ヒアリング
				高根クラインガルテン視察およびヒアリング
	2日目	6月22日	午前	観光課ヒアリング
				グループ会議
			午後	商工・食農課ヒアリング
				生涯学習課ヒアリング
				グループ会議
				グループ会議
				グループ会議
3日目	6月23日	午前	チェックアウト・解散	

2. プログラムの内容要約・取り組んだ課題

「フィールドスタディ（地域再生）」は、山梨県北杜市との連携に基づき、学生と北杜市の研修職員がグループを形成し、一体となって地域の問題に取り組む講義です。今回11年目を迎える北杜市のフィールドワーク、2018年のテーマは「北杜市と羽村市の姉

妹都市間交流」でした。東京都羽村市は平成8年、北杜市に合併前の旧高根町と姉妹都市関係を締結していました。現在は、北杜市全体が引き続き羽村市と姉妹都市となっていますが、交流の内容が文化やスポーツと限定的であり、参加するメンバーも固定化しているなどの課題を抱えています。私たち受講生は、地域の方からのヒアリングや実地調査の結果をもとに、この問題に対する政策提言を準備・発表します。提言は、市の職員と協力して行います。地域に住んでいない私たちと地域住民である市の職員、異なる立場の意見を反映できることがこの講義の意義であると考えます。

実地調査は2回行いました。第1回目は北杜市・羽村市側からの紹介を中心とし、第2回目は、自分たちで収集した資料と第1回目の調査結果をもとに、北杜市・羽村市に対して積極的なヒアリングを行いました。第1回目の調査を通じて生じた疑問点なども、このヒアリングを通じて解消することができました。最終日は、北杜市・羽村市の代表の方々に対し、政策提言を行いました。また、代表の方々からも貴重なご意見をいただくことができました。いただいた意見を参考に提言内容の修正を行い、10月の北杜市市政報告会で発表する予定です。



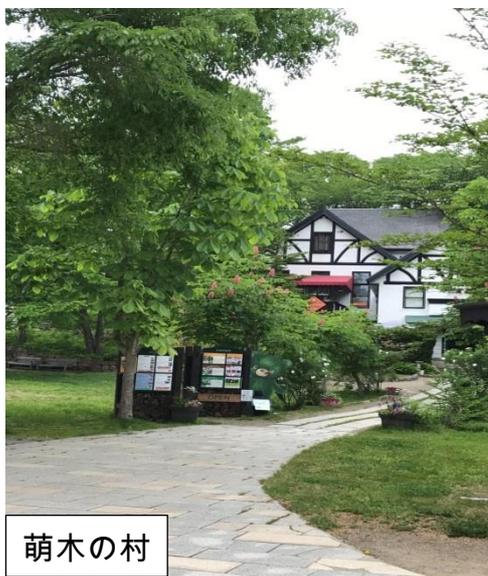
三分一湧水

3. 参加して得た成果、感想

今回の講義は、受講生全員が社会人学生であり、国籍や職歴など異なるバックグラウンドを持っていました。同じものを見聞きして共感することもあれば、大きく異なる意見が出ることもありました。特に日本人学生と一緒に実地調査をすることで、学べたことがあ

ります。日本では「普通」とされていることが、私たち外国人留学生にとっては「普通」ではないことが多くあります。日本人にとっての「普通」とは何なのか、なぜ「普通」と考えるのかを様々な場面で知ることができ、日本への理解がより一層深まったように感じます。

実地調査では、市長様、市役所、地域委員会の方々とも直接交流することができました。地域住民でもある市の研修職員からは、一緒にフィールドワークをする中で、住民の方々の普段



萌木の村

の生活に関するお話を伺うことができました。早稲田大学公共経営の学生ならではの、とても貴重な経験ができたと感じています。

4. プログラムのおすすめのポイント

講義を通じて「地方」の実態を知ることができるのが、一番のおすすめポイントです。東京に住む私たち留学生は、日本の地方が抱えている問題(少子高齢化や働き手不足など)をなかなか実感することができません。旅行を通じて色々な地域を回ってみることは可能ですが、旅行者としての立場からそれぞれの地域が抱える課題に気付くことは難しいと考えます。フィールドスタディ(地域再生)では、実地調査や地域住民へのヒアリングを通じて、その地域の持つ課題や魅力に気づき、理解を深めることができます。留学生という立場で自国と比較したり、自分の持つ知識を活かして地域の課題に対して貢献できることは、とても有意義なことです。

